

日本の風呂を満喫した旅

今回は、趣を変えて日本のお風呂について。先月、私は道後温泉に行ってきました。

2003年に香川県で一年暮らした経験を持つ私は、当時、一度だけ松山に行ったことがありました。それは、務めていた町役場の国際交流協会のスタディーツアーで、バスガイドを下手に果たした時でした。当時、疲れ切った私が道後温泉の湯と湯気に癒されたはずなのに、なぜかはっきりした記憶がありません。

殆ど覚えていなかった松山市を今回訪れようと考えたきっかけは、特にありません。ただ何となく、道後温泉に行ってみたいと思ったのです。香川県で昔知り合った友達（写真参照。道後温泉の前に立っている）と、東京から連れ立って行くことになりました。

共に東京から移動してきたばかりの二人には、到着した松山市はいかにも素敵に静かにたたずむ場所でした。日本人以外の者はこの二人しか見かけなかったのも、好感度を上げた重要な要因です。アメリカ人や他の外国人が多く往来すると、日本の雰囲気、日本らしい良いところが遮られる、と私は信じています。



松山市に三泊し、そのうちの一日を道後周辺にささげました。松山市中心部の大街道駅から路面電車に乗り、道後駅に着いたのは、商店街のお店が開き始めたばかりの時刻。私たちは、ゆっくり、のんびりと周辺をぶらつきました。

実は、準備作業として、私は夏目漱石の「坊っちゃん」を読んでおきました。一年間の滞在中に漱石が満喫した道後温泉などが小説に出てきたため、私はそれらの場所に出会った瞬間に100年前の道後にいるような錯覚に陥りました。当時の風情が維持されている場所を様々に感じながら、「旨い」と言うだけでは足りないほど美味しい道後ビールを飲みました。個人的には、特に坊っちゃんビールがベストでした。いっしょにトンカツ定食も食べました。これもおいしかったです。

そしていよいよ、温泉に入りました。「椿の湯」も良さそうでしたが、本格的な「道後」を体験するつもりでいたので、我々は本館の「神の湯」を選びました。

温泉の建物からは、その地が有する長くて強い歴史が感じられました。「神の湯」には二か所の浴室があります。二か所目のお風呂で熱い湯気の中に体を任せて休んでいると、私の友達にお爺さんが英語で話しかけてきました。「ハロー！ ウェルカム・ジャパン。ユー・ヒアー道後。アィム・ハッピー！」さらに話し続けてみると、とても元気な彼は毎日道後温泉に入っているということがわかってきました。道後温泉が彼の健康の源泉となっているのです。

建物の一階にあるお風呂から出て、浴衣を羽織り、二階の座敷へと移動し、座敷に座りながらお茶とせんべいを頂きました。その後、三階にある漱石が泊った部屋に入ってみ

ると、その窓から道後ビールを飲んだ店が見えるではありませんか。本館を出て再び道後ビールを飲みました。何という遊惰な一日！

晩御飯は、予約しておいたふなやホテルでとりました。「詠風庭」の風雅な川席（写真）では、御手洗川のせせらぎの隣りで食事をとることができます。我々は19時から食事を始めましたが、20時頃になると夕闇が迫ってきて、妖精のように彼方此方で蛍が光り始めました。木々に隔てられて見えない他の客の笑い声が流れてくる中、ビールを飲みながら、蛍の光るさまを眺めていると、蛍の羽ばたいて飛び描く模様に何かの意味があるだろうかと考えてしまいました。自然そのものが夕暮れと共に陶醉し出したことを表現しているように思えました。二人の男には少しロマンチック過ぎた食事でしたね。

浮気性に思われるおそれが大ですが、道後温泉以外に二つの素敵なお風呂も体験しました。一つは、松山市で宿泊した「ホテルNo.1」の屋上にある素晴らしい露天風呂です。浴室に入るために通る12階の廊下には、妖精の彫刻（写真）が風呂を守っていました。露天風呂では、ライオンの口からこぼれてくる湯を浴びながら松山城を眺めることができ



ました。露天風呂の湯の温さと市街を流れる涼しい微風との矛盾したような組み合わせが、松山ののどかさを象徴しているようでした。

もう一つは、松山を出てから訪れた京都祇園五条のお風呂です。それは秀峰閣旅館の地下にある暗くて静かなお風呂で、微かに響く鈴の音（水琴窟の音色）に浸るような形に作られていました。「瞑想の湯」と名づけられたそのお風呂は、趣のある京都に相応しいと思いました。普通のお風呂の他に、椅子のような形になったお風呂があり、それにも入ってみました。それは、神が権現のように降りてきそうな至福の時間をくれました。

今回の旅行では、日本のお風呂文化のすばらしさを再認識しました。どこのどのお風呂もそれぞれに個性があり、それぞれ独自に日本を代表しているように思いました。

筆者紹介

ネルソン・グラム

U.S. Attorney (Virginia Bar), Global IP Counselors, LLP 所属。

1981年米国バージニア州生まれ。ジョージ・ワシントン大学 (DC) で国際関係論を学びながら、ウルグアイ大使館でインターン。卒業後、2003年渡日、香川県三野町（現在三豊市）の国際交流協会にて一年勤務。うどんが大好物となる。帰国後、ジョージ・メーソン大学ロースクール卒。2008年8月からGlobal IP Counselors, LLPに弁護士として勤務。趣味は読書、運動。好きな言葉は「鳴かぬ蛍が身を焦がす」。